

## 火山噴火予知と新しい「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」



火山防災研究部長 鶴川元雄

日本では火山災害を軽減するため噴火予知の実現が国の重要な課題でした。また噴火予知に関わる機関が大学、気象庁、国の研究所など多機関にわたっていました。このため1974年から「火山噴火予知計画の推進について」という5カ年計画が国の審議会によって建議され、この計画に沿って火山観測網の整備や実験観測等が推進されてきました。一方、地震に関しては、地震予知のための5カ年計画が火山より10年早く1965年から始められ、これら2つの計画の下で火山と地震の研究は連携して進められてきました。

地震も火山噴火も地球内部の地殻やマントルに原因がある現象です。これらの予知のためには地震観測や地殻の変形の観測など、共通して調査・解明しなければならない課題がたくさんあります。このため本年度から始まる新しい5カ年については、地震分野と火山分野の協力と連携をさらに進めるため、これまで別々に立てら

れていた5カ年計画を「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画の推進について（建議）」という1つの計画に統合することになりました。

新しい計画では、地震と火山の研究手法の違いもあるので、それぞれの特色に配慮しつつ、地震・火山を統合した計画を立てています。例えば地震も火山噴火も「予測システムの構築」を今回の計画の中心課題の1つとし、地震についてはシミュレーションの高度化、火山については噴火シナリオ作成をそれぞれの目標に設定しています。また「地震活動と火山活動の相互作用」というような二つの現象を共通して理解するための研究も計画に組み入れられました。

5カ年計画の最初の年である今年度、火山に関しては本計画に基づき、火山の基盤的観測網の整備に着手しました。これからの5年間に、新しい成果が創出されることが期待されています。



写真1 富士第6火山観測施設の観測井への地震計・傾斜計の設置



写真2 富士山南腹に2003年に整備された富士第6火山活動観測施設